

## 第3章 計画の基本的な考え方

本計画では、これまでの読書活動推進に向けた取り組みの成果と課題を踏まえ、子どもたちにとってより充実した読書活動ができる環境を整備すべく、方針・方策を定めます。

### 1. 基本方針

滝川市のすべての子どもが読書を通じて様々な知識を身につけるとともに、豊かな想像力を育み、感性を磨き、自ら考え判断する力を身につけられるよう、子どもの読書活動を推進します。また、図書館や幼稚園・保育所、学校などをはじめとした子どもの読書に関わる機関が、地域や企業、団体などと連携し、一体となって子どもの読書環境の整備に努めます。

### 2. 目標

上記の方針に基づき、滝川市の実情を踏まえて、次のとおり目標を定め、積極的な子どもの読書活動推進に取り組みます。

- (1) 読書推進：家庭・地域・学校などを通じた、社会全体での子どもの読書活動の推進
- (2) 環境整備：子どもの読書活動を推進するための読書環境の整備
- (3) 啓発：子どもの読書活動に関する理解と関心の普及
- (4) 学ぶ力：読書活動を通じた、子どもたちの「学ぶ力」を育む取り組みの推進
- (5) 資料充実：多様な子どもたちのニーズに対応できる資料の充実
- (6) ICT：ICT（情報通信技術）の活用による読書環境の整備

### 3. 対象

0歳前から高校生までと、その保護者及び子どもと関わる大人を、本計画の対象とします。

## 4. 期間

2024年度から2028年度の5年の期間で取り組みます。なお、社会・経済情勢、子どもをとりまく環境の変化などに対応していくため必要に応じて計画の見直しを行います。

## 5. 成果の検証

「第3次滝川市子どもの読書活動推進計画」の成果は、子ども向け行事の実施回数及び参加人数や学校の図書館活用回数、児童書などの購入比率、児童書貸出冊数及び件数、年齢別の貸出冊数・件数など、客観的な統計データなどを用いて毎年検証を行うこととします。

また、第4次計画へ反映させる基礎データとして、4年目にあたる2027年度に児童生徒への読書状況調査及び子どもの読書に関わる機関などを対象としたアンケート調査を実施します。

## 6. 策定経過

「第3次子どもの読書活動推進計画」は、滝川市社会教育委員会議及び滝川市教育委員会会議により検討及び策定されました。

### 2023年

4月～5月	学校、保育所などの子どもの読書に関わる機関を対象にアンケートを実施
10月26日（木）	第2回滝川市社会教育委員会議において第2次計画の成果検証及び第3次計画の素案について審議
11月25日（土） ～12月10日（日）	第3次計画の素案についてパブリックコメントを実施
12月19日（火）	第5回滝川市教育委員協議会において第3次計画の素案について審議

### 2024年

1月24日（水）	第3回滝川市社会教育委員会議において第3次計画の成案について審議
1月26日（金）	第1回滝川市教育委員会会議において第3次計画の議決
2月9日（金）	第11回滝川市総務文教常任委員会において、第3次計画の概要報告

# 第4章 子どもの読書活動の推進のための方策

子どもの読書に対する興味や能力は、心身の発達段階と密接に関係していると言われていることから、それぞれの年齢や発達段階に合わせた読書活動に取り組みます。

## 1. 0歳前

### 特 性

おなかに赤ちゃんが宿ったときから、子どもへの読書活動は始まっています。これから親となる保護者が、愛情を持って赤ちゃんを迎えるための準備のひとつとして、絵本を通した語りかけがあります。お母さんがおなかの赤ちゃんに読み聞かせをすることで、生まれてきた赤ちゃんがお母さんの声を認識したり、お母さん自身もゆったりとした時間を持ち、心の安定が図られます。

### 方 針

- 子どもの読書の大切さを、これから親となる保護者に伝えます。
- 出産準備や育児に関する本を充実させ、保護者の図書館利用を促します。
- 絵本やくらし・育児に役立つ本の情報を提供します。
- 関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。

### アクションプラン

※「新」…第3次計画における新たな取り組み。

※「目標」…各取り組みの主な目標。（「第3章 2. 目標」参照）

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	おなかの赤ちゃんへの読み聞かせ		読書推進
子どもと大人が集まる施設	妊婦対象講座での啓発		啓発
図書館	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施	新	環境整備

実施主体	取り組み	新	目標
図書館	読み聞かせの啓発	新	啓発
	おすすめ本の紹介		
	図書館利用の案内		
	出産や育児に関する本の充実		資料充実

## 2. 乳幼児

### 特 性

#### 乳 児 期

保護者や周りの大人からの語りかけによって、言葉を獲得していく時期です。読み聞かせを通して、親子のふれあいが生まれ、絆が深まります。また、本に親しむきっかけづくりの土台となる時期です。

#### 幼 児 期

言葉が豊かになり、色々な分野の本に興味を示し始める時期です。物語の世界を想像して楽しむことができるようになります。また、家庭から保育所や幼稚園などへと、一日を過ごす生活の場が変化し、集団での読み聞かせや本を通じた遊びや体験などにより、文字や言葉に興味を示したり、自らの力で本を読むことへとつながっていく時期です。

### 方 針

- おすすめ本の紹介や家読<sup>うちどく</sup>注 18 について啓発を行い、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- ブックスタート事業を継続実施し、赤ちゃんへ発達段階に応じた絵本を贈るとともに、関連施設と連携し、子育て情報を提供します。
- 保育所や幼稚園などが図書館の貸出文庫や「どこでもドクショ。」事業<sup>注 19</sup>を活用することで、子どもたちが様々な本と出会えるような環境を整備します。
- 本やおはなし会などの体験を通して、親子がふれあう機会の充実を図ります。
- 紙芝居や大型絵本、読み聞かせ機材を充実させて、おはなし会の内容を豊かにします。
- 児童書を一層充実させて、本と出会う機会を提供します。
- 本を活用した体験や遊びを通して、本や言葉に親しむ機会を提供します。
- 身近な場所で読み聞かせなどの読書体験ができるよう、図書館による出張おはなし会の活用を促します。

---

注 18/家族で本を読んでコミュニケーションを図り、家族の絆を深めることを目的とした読書活動。

注 19/寄贈本や図書館で除籍になった本を施設にプレゼントする事業。

- 地域と連携し、本や体験を通して親子がふれあう機会を創出します。
- 関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。
- 子ども用の図書館利用案内を作成・配布し、子どもたちの図書館利用を促します。

## アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	家読タイムの実施		読書推進
	絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通じたスキンシップ		
地域	出張おはなし会の活用		読書推進
子どもと大人が集まる施設	出張おはなし会の活用		読書推進
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」の活用		環境整備
	絵本の紹介や読み聞かせ、子育て情報の提供		啓発
幼稚園 保育所 託児所	園児・通所児への読み聞かせ		読書推進
	読み聞かせ機材の活用		
	本などを通じた体験遊びや創作遊びの提供		
	出張おはなし会の活用		環境整備
貸出文庫や「どこでもドクショ。」の活用			
図書館	えほんダイアリーの配布		読書推進
	おはなし会の実施及び参加促進のための周知		
	講演会やワークショップの開催		
	企画展示の実施		
	地域との連携による、本や体験を通して親子がふれあう機会の提供		
	出張おはなし会の実施及び利用促進のための周知		
	「ブックスタート」の実施（4・5か月児相談時）		環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施	新	
	幼稚園・保育所・託児所への団体貸出の実施		
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」などによる読書環境の整備		啓発
	「滝川市立図書館活用ガイド～子育て施設編～」の配布	新	
	子ども用図書館利用案内の作成・配布		
	読み聞かせ、家読タイムの啓発		
おすすめの本の紹介		資料充実	
読み聞かせ機材の充実及び利用期間などの検討			
児童書の充実			

## 3. 小学生

### 特性

小学生になると、読書の喜びを知り、自ら本を読みたいと思うようになります。文字を覚え、徐々に主体的に読書習慣を身につけていく時期です。

### 低学年

字が読めるようになったからと、一人読みをさせてしまいがちですが、まだまだ文字を追うのが精一杯な時期でもあります。読み聞かせで本の楽しさを知ること、自ら進んで本に手を伸ばすようになります。

### 中学年

興味が多様化していく時期です。物語だけではなく、科学や自然、知識の本を好む子もいます。子どもたち一人ひとりの興味や関心に応じた本を薦めていくことが大切です。

### 高学年

生活体験が豊かになり、幅広い分野の中から、自分の目的に合った本を適切に選択できるようになる時期です。読書離れの始まる時期でもあるため、子どもたちが主体的に本を手に取りたくるような働きかけが必要です。

### 方針

- おすすり本を紹介や家読についての啓発を行い、子どもに読書を好きになってもらうことで自主的な読書を促すとともに、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- 図書館の貸出文庫や学級文庫を活用し、身近な場所で本にふれることのできる環境を整備します。
- 学校図書館担当業務を担う人員の配置や蔵書のデータベース化に向けた作業を図書館が支援します。
- 「学校との連携による子どもの読書活動支援事業連絡会議」において、先生と意見交換を行いながら、それぞれの学校に合わせた学校図書館の運営サポートに取り組みます。

- アニメーション<sup>注20</sup> やブックトーク<sup>注21</sup> など、本を活用した体験や遊びを通じて、本に親しむ機会を提供します。
- 教職員のニーズに対応した学習用図書を図書館が貸出することで、調べ学習の支援強化を図ります。
- 地域との連携による「たきかわ DE 調べる学習体験講座」を通して、実際に体験したことについて本で調べてまとめる力を身に着けるとともに、調べることの楽しさを伝えます。
- 調べ学習や自由研究の成果発表や評価の場として「調べる学習コンクール」を開催し、子どもたちに目標をもってもらうとともに、調べ学習活動のすそ野を広げます。
- 子どもたちからの要望を反映させるなど、児童書を一層充実させ、本と出会う機会の充実を図ります。
- SNS での情報発信など、電子メディアの活用による読書推進の取り組みを実施します。
- 子どもたちへの読書状況についての調査や、関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。
- 子ども用の図書館利用案内を作成・配布し、子どもたちの図書館利用を促します。

## アクションプラン

実施主体	取り組み	新	目標
家庭	家読タイムの実施		読書推進
	絵本の読み聞かせやふれあい遊びを通じたスキンシップ		
地域	出張おはなし会の活用		読書推進
子どもと大人が集まる施設	本を活用した工作などの実施や作品の図書館での展示	新	読書推進
	出張おはなし会の活用		環境整備
	貸出文庫や「どこでもドクショ。」の活用		
学校	読み聞かせの実施		読書推進
	図書委員会の活動の充実		
	学校図書館の活動を支援する人材の活用	新	環境整備
	図書館との連携による学校図書館の整備や、蔵書の充実など、読書環境の整備		
	図書館学級文庫の活用		
	朝読書や休み時間を使った読書時間の確保		

注 20／読書をゲームとして楽しみながら読解力・表現力・コミュニケーション力を育てる読書指導法。

注21／一定のテーマを立てて、一定時間内に何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。「本の内容を教える」ことではなく、「本の面白さを伝える」、「その本を読みたいという気持ちを引き出す」ことを目的とする。



実施主体	取り組み	新	目標
学 校	学校図書館の利用に関する子どもたちへの説明	新	啓発
	授業での図書館の活用		学ぶ力
	調べる学習コンクールへの参加		
	蔵書データベース化の検討		ICT
	電子メディアを活用した読書や調べ学習の促進		
図書館	読書習慣の定着に向けた事業の実施	新	読書推進
	「滝川市立図書館活用ガイド～児童センター編～」の配布		
	読書アルバムの配布		
	読み聞かせやブックトーク、アニメーションなどの読書体験の提供		
	講演会やワークショップの開催		
	巡回展の実施		
	おはなし会の実施及び参加促進のための周知		
	図書委員会の活動支援と啓発		
	出張おはなし会の実施及び利用促進のための周知		
	読書状況調査の実施	新	環境整備
	子どもの読書に関わる機関へのアンケートの実施		
	学校の要望に合わせた学校図書館の運営サポート		
	図書館学級文庫や貸出文庫などによる読書環境の整備		
	子ども用図書館利用案内の作成・配布	新	啓発
	読み聞かせ、家読タイムの啓発		
	「滝川市立図書館活用ガイド～小・中学校編～」の配布		
	おすすめの本の展示や紹介		
	学校への調べ学習支援事業の実施		学ぶ力
	たきかわっ子ワクワクまなびプログラムの実施		
	読み聞かせ機材の充実及び利用期間などの検討		資料充実
児童書の充実			
SNS での情報発信など、電子メディアを活用した読書活動の支援と啓発	新	ICT	

## 4. 中学生

### 特 性

読書の広がりや深まりが進み、自分で未来を切り拓いていく力を身につけていく時期です。その一方、勉強や部活動、趣味などで読書にかけられる時間が少なくなる傾向が出てきます。読書を習慣づける取り組みや、多様な趣味・関心に応じた読書環境の整備が重要です。

### 方 針

- おすすり本の紹介や家読についての啓発を行い、子どもに読書を好きになってもらうことで自主的な読書を促すとともに、様々な本との出会いの場や機会を提供します。
- 子どもたちからの要望を反映させるなど、ヤングアダルト<sup>注 22</sup> 世代の興味・関心を考慮した本の充実とおすすり本の情報発信を行います。
- 図書館の学級文庫を活用し、身近な場所で本にふれることのできる環境を整備します。
- 学校図書館担当業務を担う人員の配置や蔵書のデータベース化に向けた作業を図書館が支援します。
- 「学校との連携による子どもの読書活動支援事業連絡会議」において、先生と意見交換を行いながら、それぞれの学校に合わせた学校図書館の運営サポートに取り組みます。
- 教職員のニーズに対応した学習用図書を図書館が貸出することで、調べ学習の支援強化を図ります。
- 図書委員会の活動の充実を図ります。
- SNS での情報発信など、電子メディアの活用による読書推進の取り組みを実施します。
- 子どもたちへの読書状況についての調査や、関係機関へのアンケートを実施することで実情の把握に努めます。

---

注 22／発達心理学で「成人期前期」のことを指し、「公共図書館におけるヤングアダルト（青少年）サービス実態報告」（日本図書館協会・1993）では、13 歳から 18 歳（中学生から高校生の学齢）の利用者と規定されている。